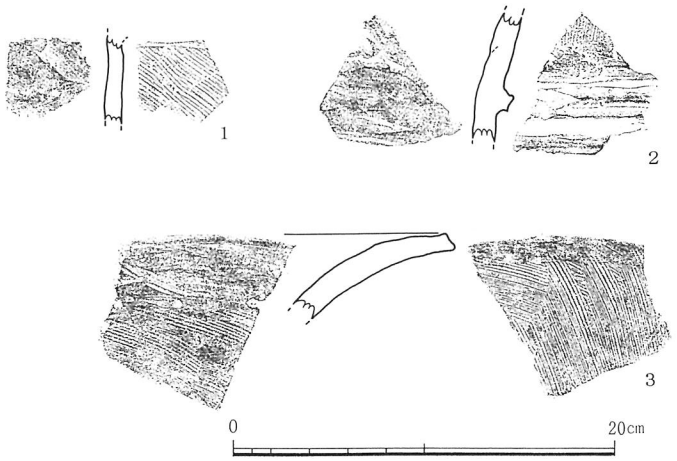


第29図　恵我長野西陵の出土品（1/4）

ヨコナデを施しているが、とりわけ上端ではヨコナデの後、さらに爪先状のものでナデ付け、接合部を強調している。また、外面下側には二次調整としてのヨコハケが認められる。内面には、粘土帯を積み（巻き）上げる際に擬口縁に刻んだ斜め方向の切り込みが観察される。後者は外面を右下がりのナナメハケで仕上げている。

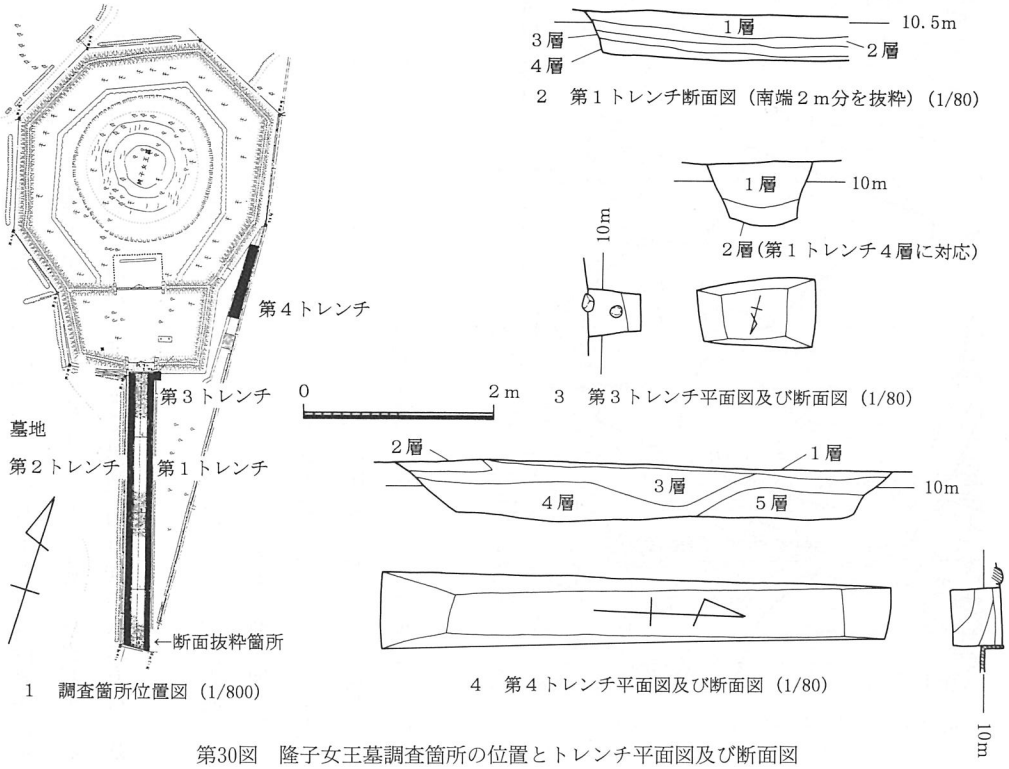
朝顔形埴輪（3）　墳丘西側くびれ部からの採集品。大きく外反した口頸部である。口径は五二センチ前後に復元できる。外面は右下がりのナナメハケの後、斜め方向に近いタテハケを加えて仕上げている。茶褐色を呈する製品で、内芯は青灰色を示している。

（福尾　正彦）

隆子女王墓金網フェンス設置他整備工事箇所の立会調査

隆子女王墓は、三重県多気郡明和町大字馬之上にあり、斎宮の北西に位置する。周囲は遮蔽物のない広い平野であり、失われているものも多いが、頭椎大刀を出土した坂本一号墳をはじめとして、現在でも数多くの古墳が点在し群集墳を形成していたことが知られる。調査は、本墓の境界沿いに新たに金網フェンスを設置し、参道の舗装を行うなどの整備工事が行われるのに伴って、平成九年九月九日から一二日の四日間に渡り実施した。

掘削を伴う工事箇所を中心に、域内に四箇所のトレンチを設定した（第30図1）。第1・2トレンチは参道の舗装箇所で、約三六メートルに渡って、深さ〇・四メートルを掘削した。土層は四層に分けられ、1層は砂利層、2層は黄褐色粘質土層、3層は混礫砂層、4層は黒灰色細砂層である（第30図2）。これらは、トレンチ内ほぼ全体で均一に確認でき、両トレンチとも同様の状況を示すことから、既存の参道を整備した際の盛土と考えられる。第3トレンチは排水桝設置個所で、深さ〇・六メートルまで掘削した（第30図3）。土層は二層に分けられ、1層は第1・2トレンチの4層に対応すると考えられる盛土である。人頭大の石のほか、小礫を多く含んでいる。2層は黄褐色粘質土で礫などを含まない安定した堆積状況を示す。遺構面になり得る土層だと考えられる。第



1　調査箇所位置図（1/800）

2　第１トレンチ断面図（南端２m分を抜粋）（1/80）

3　第３トレンチ平面図及び断面図（1/80）

4　第４トレンチ平面図及び断面図（1/80）

第30図　隆子女王墓調査箇所の位置とトレンチ平面図及び断面図

4トレンチは金網フェンス設置個所で、深さ〇・六メートルまで掘削した（第30図4）。土層は五層に分けられ、1層は表土層、2層は炭混じりの撹乱土層である。3・4・5層はそれぞれ色調は異なるが、締まりのない砂質土で堆積状況からも盛土と考えられる。トレンチ底面にも、4層に対応する土が帯状に確認できることから、比較的大規模な盛土が行われていたものと考えられる。

各トレンチから遺構・遺物は検出されず、また掘削の及ぶ深さでは、第3トレンチで遺構面になり得る土層が確認できたほかは、すべて比較的近年の盛土と考えられる。

以上の所見から、工事は予定どおり施工した。

なお、今回の調査では、明和町教育委員会から多大なご協力、ご教示を賜った。記して感謝申し上げるものである。

（清喜　裕二）

豊島岡墓地内埋蔵文化財調査

一　はじめに

豊島岡墓地は文京区大塚五丁目に所在し、約八万平方メートルの面積を有する。この場所は明治六年九月一八日に明治天皇第一皇子稚瑞照彦尊が誕生即日薨去されたことを契機に、護国寺後山の権現山と称していた山林のうち約八千坪の土地を、墓所として東京府より譲渡されたこと